

○ 首都圏食肉卸売協が全国食肉学校で牛肉処理実践研修、若手社員 18 人が参加

首都圏食肉卸売業者協同組合（理事長＝阿部昌史ミートコンパニオン社長、組合数 29 社）は 2 月 13 日から 16 日まで、群馬県玉村町の全国食肉学校で「牛肉処理実践研修」を開いた。研修会期間中では、組合員企業 8 社から若手社員 18 人が参加した。牛枝肉の大分割から、小割り、精肉、調理までの一連の工程について研修を受けた。参加した若手社員は 4～5 人のグループに分かれ、それぞれ 1 頭分の牛枝肉が割り当てられ、全員がナイフや電ノコを使って実際の分割工程を学んだ＝写真。

同研修は、農畜産業振興機構の 2022 度畜産振興事業「食肉流通経営体質強化促進事業」の



うち「食肉流通機能強化推進事業」によるもの。同事業を組合が選択し、技術習得および経営力強化の推進のため牛肉処理実践研修を企画、承認された。

同研修会は、3 月（7～10 日）も同様の内容で開催され、組合企業 5 社から 14 人の参加を予定している。